

# 『みんなの笑顔のために』

## 🌸 みんなを大切に 笑顔の花をさかせよう 🌸

このスローガンのもと、本年度、「人権の花運動」に取り組んでいます。児童一人一人が花を育てる体験をすることにより、生命の尊さを実感し、豊かな心を育み、やさしさと思いやりの心を体得することが目的です。6月21日（水）に、本校体育館において、**伝達式**が行われました。「人権の花運動」で使用する看板やプラカードを受け取り、花の苗植えのデモンストレーションを行いました。その後、人権キャラクター「人KENまもる君」と和歌山県マスコットキャラクター「なごみん」が登場し、子どもたちは大喜びでした。（登場しただけで、子どもたちを笑顔にできる「なごみん」の力をうらやましく感じるほどでした。）花の栽培を通して「命を大切に作る心」や「他者への思いやりの心」など、基本的な人権を尊重する精神についてさらに認識を深めるとともに、栽培した花の種を周りの人々にお渡しすることにより、人権尊重の輪を広げていこうとする意欲を高めるきっかけとしたいと考えています。11月22日（水）に、「人権の花運動」の**修了式**を計画しています。

### 様々な人権課題

数年前の「熊本県人権こども集会」で、鹿本高校の生徒が中学生のときにハンセン病について学習したことを発表してくれました。恵楓園を訪れた時、その広さに驚き、「広いですね。」と言ったら、「皆さんそう言われます。でも私たちの一生、この園内の中だけなんです。」と答えられたそうです。この一言からも、ハンセン病に対する様々な偏見や差別の現実について知ることが出来ます。知らないことが差別を生みます。その生徒は、「病気について正しく知り、理解することが大事だ。」と訴えてくれました。



私たちには、日常生活の中で、知らず知らずのうちに身につけている差別的な意識があります。しかし、人権に関する学習をしていく中で、自らの差別性に気づきます。したがって、様々な人権問題の解決のためには、地域社会や自分自身の中に差別がこんな形であるという事実気づく学習がなされなければなりません。

先日、眼科医の先生の講演をお聴きする機会がありました。その中で、自分自身「はっ」とさせられることがあったのです。これまで、視力検査等の結果を見て「この子は目が悪くなっている」という表現をしていましたが、その間違いに気づかされました。その先生は、「近視は進行している」が、「目が悪い」わけではないと話されました。近視が進行しても、メガネを使用することで通常の生活を送ることができます。

私は以前、「障がい者」と「健常者」の共同作業所としてスタートした会社の社長をお招きして人権学習をしたことがあります。その時の社長の話を思い出しました。『手が不自由だとか、足が不自由だとかいうのは「障害」ではありません。本人の努力次第で色々なことが出来るようになります。足が不自由でも、車いすを利用することで、移動することも可能です。しかし、本人の努力ではどうしようのないことがあるのです。それは、「段差」です。ちょっとした段差があるだけで、車いすで移動することができなくなるのです。それが「障害」なのです。しかし、その「障害」はまわりの人の努力で取り除くことができます。』 「障害」を取り除くのは、周りにいる私たちなのです。ですから、様々な人権課題はある特定の人の問題ではなく、わたしたちみんなの課題なのです。